

42 破天荒

令和 元年度版

創刊
第三十一号

2年3学期は人生の中でも忘れられない学期になりそうです

三月三日は桃の節句です。今年も本来であれば、四十一回生の卒業式に自分の一年後の姿を重ねながら、心を込めて参加し、この三月三日は学年末考査最終日のはずでした。

世界は今後、どう収束していくのでしょうか。私達を取り巻く環境は、今まで経験したことのないものです。だからこそ、起こりうることの予測、当たり前にできる基礎的な要素(生活面でも、学習面でも)を徹底する、景色を広げることができるを増やすことが大切だと思います。

とはいえ、私達四十二回生に残された相生高校での日々は、すでに一年を切りました。何度も伝えていくように、三年生零学期であった二年三学期の助走を経て、いよいよ具体化したターゲットに向かって走り始める春休みです。

四十二回生の皆さん、困難は乗り越えられる人しか与えられません。選ばれた我々は、今こそ自分達が試されている、自分の底力を引き出しましょう。私達教師団も、許される限り毎日、あなたたちにメッセージを発信し続けます。皆さんは、教科書、メッセージ、参考書等を利用して、自分の中にある「自ら学ぶ意欲」、「身につけたい欲望」、「分らない」という言葉への悔しさを呼び起こし、本当の自己解決力に出会いましょう。

兵庫県の先輩方は、今を遡ること二十五年、受験シーズンの真っ只中に未曾有の大地震に振り回された経験があります。それでも、兵庫が、日本が今あるのは、そのピンチをチャンスに捉えて、後世にそれらの困難を跳ね返したエネルギーを伝えてくれたおかげです。

いま私達が置かれている状況は、それに比べれば、インターネットの技術・それらも含めた自己学習力の環境も、格段の差があります。ハードの進んだ整備に対して、我々教師を含めた個々のソフトが、そのハードの上でどう動き、どう活用し、どう結果を出していくか。

あと一年弱。四十二回生集団のこの二年間に培ってきたものが、いよいよ皆さんとともに、保護者の皆様も含めて試されるチャンスをおいただきました。

「負けてたまるか!」
この困難を楽しみ、個々の本底を引き出しましょう。

学びとは、教科書・学習のみならず、自分をどう生かすかの企画・計画など、自らをどう見つめるか、自らの課題にどう自分を立ち向かわせるか、自らの歩みをどう具体的に評価していくかなど、様々な局面の中にあるものです。

今こそ しておいて欲しいこと

一、徹底的な復習

春季課題を利用して、提出ノルマのイメージでなく、教科書・授業ノート・参考書を活用して、気付きの学習パターンを身につけること。
三年生での学習は、演習が増え、見直し・確認の機会を軽視しがちです。今こそ、復習の機会増により、自己解決回数増加を実感しよう。

一、メリハリをつける方法

(自分のリフレクシユ法の確立)
人はそれぞれに、集中力を高める・学習効率を上げる方法は異なります。授業・補習・部活動等にと、忙しい時期には、なかなか「試す」という行為はできません。与えられる時間が増えた「いま」だからこそ、効果的に使える、人によって差が生まれる時間です。

一、間違いを実感する時間を作る

つねに「間違いを許さない」考えは、非常に危険です。ただ、皆さんには「間違いを許す」時間がなかなかないのも事実。
今回の時間軸の中で経験して、実感をした間違いの中から、自らの課題を修正したり、その経験をしたから、よりスムーズに正解の道を進めるようになることも実感してもらえないのではないかと思います。

「埋める」学習のための時間ではなく、「気付く」学習のための時間を過ごしてほしい。そのためには、平等に与えられた二十四時間を、人とは違う時間活用のために、皆さんがどう行動してくれるのか、私達もまた、自分の想いの中に、皆さんの行動への期待を込めて、四月八日を迎えたいと思います。

二学年最終号では、学年団の先生方から、それぞれの三学期零学期から、皆さんに励ましのお言葉を頂きました。その紹介と、その裏にある言葉の読み取りを、しっかりとしてもらいたいと思います。

3月 4日連絡分

昨日より、自分の意思に関わらずばくち盛れます。昨日は、どんな一日でしたか。確かに、一日24時間は平等に過ぎますが、個人個人で一日に使える時間は、不平等です。たかが一日しか過ぎませんが、その一日をどう過ごしたか、これがこの先のあなたたちの時間の使い方の礎となります。ノルマクリア的な発想ではなく、ピンチをチャンスに変えられる、今こそ自分の中の課題克服・スキルアップのために、素晴らしい時間にして欲しいと思います。

「見る夢は醒め 消える 追う夢は叶う 追うのではなく 追い続け 今の夢を追い抜け」

3月 5日連絡分

おはようございます。ニュースを見ても、休校中の児童・生徒たちは力を持て余しているのが現状のようですね。皆さんはどうですか。
「不要・不急の外出を控えよ」の言葉の中に、「無意味な」を付け加えてください。そうすると、こんなときだからこそ、約10日間の間に、一つの評論・小説・経済新書・歴史新書などを手に入れてじっくり読む時間などが生み出せませんか。健康な体は、人との接触が極めて少ない環境下で、健康的に活動することも可能になるのではないのでしょうか。
何を「するべき」でなく「守るべき」なのかをしっかりと考えて、適切な行動をとって、規則正しく、いまできる「当たり前」生活を継続していきましょう。

42回生

